

令和4年度 第2回学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和4年11月28日（月） 13：30～14：30
2. 場 所 県立光陵高等学校 会議室
3. 出席者 学校運営協議会委員 7名  
(県立光陵高等学校教職員12名)
4. 議 事 学校評価報告書の中間報告  
第1回生徒による授業評価について
5. 分科会 学校評価部会  
教育活動支援部会
6. 協議内容

(1) 全体

学校評価報告書の中間報告について

- ・この2年間コロナウイルス感染症の為実施できなかった行事をほぼ平常の形に戻して実施できている。教育活動をできるだけ止めない形で実施したいと考えている。  
(職員)
- ・本校の学校設定科目である「教職基礎」ならびに「教職基礎演習」の実施に際しては近隣学校の全面的なご協力をいただき感謝している。教職を目指す生徒は増加傾向にあり教員になりたければ光陵高校へという流れが生まれつつある。(職員)
- ・会議のペーパーレスが進んでいるとのことだが、山のような電子情報を見ておいてくださいのアナウンスで済ませるのはまだ難しいと考える。当面は紙と電子のハイブリッドでの活用になるのではないかと。(委員)
- ・生徒一人一台端末が進む中でより一層の授業改善が求められている。小学校ではICT機器を学習道具として認識させることから始めている。高校での課題は落下による破損とのことだが、小学校では頑丈なプロテクタがついておりその心配は低いが重くなっている。活用における課題の改善が必要になる。(委員)
- ・体育館工事に伴う部活動での外部施設の活用については近隣学校のご協力で何とか軌道に乗り始めているので、とても感謝している。(職員)

第1回生徒による授業評価について

- ・生徒のダイレクトな反応がわかるのが良いところ。課題を洗い出して、授業改善に取り組んでほしい。(委員)
- ・生徒による授業評価の「実社会に繋がる課題について考えたことがある」の項目の肯定項目割合が他の項目に比べて低いが、STEAM教育の充実とともに高くなることを期待している。(委員)

## (2) 分科会

### 学校評価部会

- ・保護者宛の文書もペーパーレスを進めても良いのでは。生徒配付物についても紙が多すぎると感じている。(委員)
- ・小学校ではHPへの掲載で済ませるケースもある。(委員)
- ・中学校では職員の端末によって読み込める、読み込めないが起きるため情報共有の難しさが残る。(委員)
- ・支援が必要な生徒については、SCだけではなく近隣学校のリソースの活用も可能なので連携して取組ませていただきたい。(職員)
- ・STEAM教育の取組は今年度からなので、3年4年と経るうちに共通認識が生まれ、授業に変化が起きてくると思う。実社会の問題を考える学びについては、公民や家庭科は数値が高いので、いま学習していることが、社会の課題にどう繋がっていくのか、気づかせる工夫・問い方が重要である。(職員)
- ・中学校では、先生方の間にどうしても高校入試への意識があり、プラスアルファに割ける時間が足りないと感じている。授業改善への意識変化には時間がかかる。(委員)

### 教育活動支援部会

- ・PTA・OB会では環境整備に関わる部分で支援させていただいている。生徒のためになることであればできる範囲で協力したいので、こんなところも支援してほしいということがあれば遠慮なく申し出てほしい。(委員)
- ・小学校では、教職基礎という科目で教員になるための小学校の学習活動の理解を深める取組や、放課後キッズクラブの活動に光陵生が参加するなどの支援で、児童はとても良い刺激をいただいている。児童から見れば光陵生はあこがれのお兄さん、お姉さんで、いずれ光陵生になれたらいいと考えている児童も少なからずいると思う。引き続き良い関係で連携をしていきたい。(委員)